

# 平成28年度 全国学力・学習状況調査における

## 北九州市立 横代 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成28年4月19日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査内容

#### (1) 教科に関する調査(国語, 算数)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
・実生活において不可欠であり、常に活用できるようにしていることが望ましい知識・技能	・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

#### (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

### 3. 教科に関する調査結果の概要

#### (1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 算数A・B)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		算数A		算数B	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	10.4	70	5.6	56	12.1	76	5.8	45
全国	10.9	73	5.8	58	12.4	78	6.1	47

#### (2) 本校の学力調査結果の分析

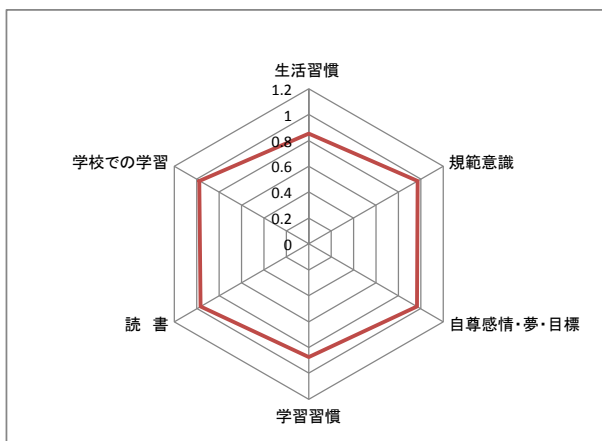
国語A	全体的な傾向や特徴など	・全体的には全国平均をやや下回っていたが、言語についての知識・理解などの基本的な内容の定着が図られていた。 ・昨年より改善しているが、書く力を問う問題にまだ課題が見られる。書くことを習慣化し、自分の考えを表現する活動を一層充実させる必要がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	「漢字を正しく読む」問題の正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	「ローマ字で書く」「ローマ字で表記されたものを正しく読む」問題の正答率が低かった。	

国語B	全体的な傾向や特徴など	・全体的には全国平均をやや下回っていたが、各領域ともに確実な力が付いてきている。 ・習得した基本的な知識や技能を活用する力にやや課題が見られる。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って質問する問題が正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	目的の応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしなが読む問題の正答率が低く、無回答率が高かった。	

算数A	全体的な傾向や特徴など	・全体的には全国平均正答率を下回っていたが、四則計算などの計算領域の知識や技能の定着が図られてきている。 ・数量関係領域と図形領域にやや課題が見られる。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	小数の除法計算をする問題は正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	1を超える割合を百分率で表す場面において、基準量と比較量の関係を問う問題の正答率が低く、無回答率も高かった。	

算数B	全体的な傾向や特徴など	・全国平均正答率を下回っていたが、昨年度に比べ無回答率が減り、粘り強く問題に取り組むことができるようになった。 ・問題解決に必要な情報を選択したり、その情報を利用して問題を解決したりすることにやや課題がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	乗法や除法の式の意味を解釈する問題は正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	単位量当たりの大きさを求めるために、ほかに必要な情報を判断し、特定する問題の正答率が低かった。	

### 4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業のはじめに「めあて」が示され、授業の最後に「振り返り」の活動があるという学習過程のスタンダード化が全校で進んでいる。また、1単位時間に話し合う活動や書く活動も積極的に取り入れてきた結果、「自分の考えを深めたり、広げたりすることができた」と考えている児童の割合が高まっている。</li> <li>・朝食を毎日食べている児童の割合が全国平均を下回っている。食育教育を充実し、朝食摂取の重要性を児童に理解させ行くことが必要である。</li> <li>・「自分にはよいところがある」と考えている児童の割合が高まり、全国平均を上回っている。児童の自己肯定感が大きく育ってきていると考えられる。</li> <li>・「将来の夢や希望をもっている」児童の割合はやや全国平均を下回っている。それぞれの夢を実現させるために具体的な将来の目標設定を行い、行動に結び付けさせることが必要である。</li> <li>・家で宿題にきちんと取り組む児童の割合は、ほぼ100%に達しており、全国平均を上回っている。しかし、計画的に勉強に取り組む児童の割合や1時間以上家庭学習をしている児童の割合は、全国平均を下回っている状況が続いている。家庭学習の仕方や内容に課題があると考えられる。</li> </ul>

## 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

### ① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

<p>「学習の基盤づくり(学習規律の徹底、学習習慣の徹底、基礎学力の定着)」と「わかる授業づくり」</p> <p>◎学習規律の徹底・学習習慣の確立を図る。 ・特にチャイム席(時間を守ること)、家庭学習の充実に引き続き重点的に全校で取り組む。</p> <p>◎授業の充実を図る。 ・チャイムとともに始まり、チャイムとともに終わる授業に徹する。 ・一単位時間の中に「めあて」「まとめ」「振り返り」のある学習課程に引き続き取り組む。特に「振り返り」の内容の充実を図る。 (価値付け・評価・自己肯定感の高揚、系統性) ・一単位時間の中に「話し合う活動(ペア対話・ペア学習・グループ学習・全体学習)」「書く活動」を設定し、自己表現力(コミュニケーション能力)を高める。 ・デジタル教科書などのICTの活用を図り、視覚に訴える授業を展開する。 ・国語や算数では、授業のはじめなどに音声計算やフラッシュカードなどに取り組む。繰り返し取り組むことにより基礎基本の定着を図る。 ・スモールステップでの指導を大切し、その指導過程で児童を認め・励まししながら達成感をもたせることにより、児童の自己肯定感を高める。(〇付け法)</p> <p>◎ 学力向上のための朝自習の内容の充実を図る。 ・全校で一斉に学力向上タイムに取り組む。【8:35~8:45の10分間】 月曜日(音読・視写)、火曜日(算数)、水曜日(国語)、木曜日(読書・読み聞かせ)、金曜日(算数)</p> <p>◎ 全国学力・学習状況調査の過去問題やWEB問題などの活用を図る。 ・朝自習の課題や冬休み・春休みの「宿題帳」に活用する。 ・特に5年生においては、3学期に過去問題に集中的に取り組む。</p>
--

### ② 家庭生活習慣等に関する取組

<p>◎基本的な生活習慣の定着 ・「早寝、早起き、朝ごはん」に、保護者との連携しながら、全校を挙げて取り組む。 ・「あいさつ運動」に全校で取り組む。 ・懇談会など、機会を捉えて保護者への啓発する。</p> <p>◎家庭学習のスタンダード化(時間・学年別・教科別内容) ・基本的に毎日宿題を出す。とにかく机の前に座る習慣を身に付けさせる。(基礎的・基本的内容の定着、学習習慣の確立のために) ・学年で、家庭学習の時間や内容をそろえる。(低学年・20分、中学年・40分、高学・60分) ※高学年では自主学習ノートに取り組み中学校へと繋ぐ。</p> <p>◎保護者への啓発 ・学校HPや学校通信などで全国学力・学習状況調査の課題と課題解決に向けての取組を、保護者や地域に周知し、家庭や地域と連携し、協力体制を整える。</p>
---